

令和2年5月29日

市議会議員各位

木更津市企画部企画課

米軍オスプレイ次期定期機体整備会社の入札に係る状況について

このことについて、防衛省職員が午後2時に来庁し、別添のとおり説明があったので報告いたします。

なお、面会の概要は下記のとおりです。

記

1 来庁者

防衛省北関東防衛局 深和企画部長

防衛装備庁プロジェクト管理部 桐石事業計画調整官

2 対応者

木更津市 山口企画部長

3 説明内容

別添のとおり

4 市の見解等

(1) 木更津駐屯地におけるオスプレイの定期機体整備に関する重要事項について、報道が先行したことに遺憾の意を伝えた。

(2) 木更津駐屯地における定期機体整備については、米海兵隊MV-22と陸上自衛隊V-22が整備対象機体であると、これまで防衛省から説明を受けており、CMV-22の整備も想定されることについては、初めて説明を受けた。防衛省には、市に対する今後詳細な説明と市議会への丁寧な説明を求めた。

問い合わせ：木更津市企画部企画課 長谷川・平松

TEL：0438（23）7425

米軍オスプレイ次期定期機体整備会社の入札に係る状況

令和2年5月
防衛省

- 2017年2月以降、株式会社SUBARUが木更津駐屯地において、米海兵隊オスプレイの定期機体整備を実施中です。これまで2機整備を完了し、現在3機目と4機目が整備中です。
- SUBARUの契約は2020年に整備入りする機体までとなっており、米軍は2021年以降の整備について実施企業を募集するため、5月8日に提案要求を公表しました。今後、入札手続きが進められ、本年秋頃に実施企業を選定される見込みです。
- 同提案要求においては、事業の基本的な内容は今期と同様ですが、同時に整備する機体数が最大7機（前回は3～4機）に増える予定です。

今後の対応について

- 日米共通整備基盤は後方分野における日米協力の象徴であり、陸自オスプレイ整備の効率化、沖縄負担軽減策の継続の観点からも、2021年以降も木更津駐屯地において事業が継続して行われることが重要と考えています。
- 次期事業期間においても我が国企業に引き続き木更津駐屯地の格納庫を使用（※）させるとともに、米側の整備需要増（最大同時7機整備）及び陸自オスプレイ整備需要（同時3機整備）に対応するため、同駐屯地に新しく格納庫を整備したいと考えています。

※ 整備事業実施のために木更津駐屯地格納庫の使用を希望する国内企業を今後公募予定

米軍の提案要求概要

- 主な整備対象は普天間に配備された24機のMV-22
- 2023年以降、米海軍CMV-22の整備も想定
- 標準的な1機当たり整備期間は約1年4ヵ月を想定
- 契約期間は最大9.5年
- 同時に最大7機整備入り
- 海外への出張整備を企業に打診する場合がある
- 格納庫は企業が用意することが基本。整備地点は沖縄から1000マイル圏内を想定
- 将来的に米軍の格納庫を貸与する可能性もある
- 複数社選定した場合は整備入り機体ごとに、どの企業に実施させるか米側が判断